令和7年度　大田区立徳持小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　令和8年3月6日

630名（9月1日現在）20学級、教員数（管理職2、担任20、専科4+A8、養護1、栄養士1、講師6）
令和6年度　おおた未来づくり科研究指定校　コミュニティスクール（令和5年1月より）　たてわり班活動、代表委員会による「いじめ撲滅宣言」「ユニセフ募金」
教員研修ではWeb QU活用、ICT活用自主研修、火曜日をB時程にし会議の時間の確保（働き方改革）

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します。	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「学習する際、タブレット端末を日常的に活用している」という設問に肯定的な回答をした児童の割合	4	新しい学習環境やシステムへの対応、児童理解に時間をかけ、学習の基盤づくりを行った。地域巡りや校外学習、まちたんけん、外部公演に関わる運営などを通して、生活科や総合的な学習の時間を中心に、教科等横断的・体験的な学習を実践し、児童が意欲的に学ぶ姿が見られた。また、振り返りや自己評価を通して学習を見つめ直す習慣づくりを進めた。デジタル教科書やタブレット等のICTも活用し、情報活用の基礎的な指導を行った。今後は、整えた環境を生かし、STEAM教育の視点を意識した実践や、情報を適切に活用する力の育成を一層充実させていく。	A	8	学校外で学べる機会が持てた事が良い。 本来学校が担うフォーマル教育の範囲を越えたインフォーマルやノンフォーマルにも学校が取り組まないとならないのは学校側にとっても大変負担と感じます。 1年間ご苦労様です。 ①についての活動は親目線で全く感じない。 ②体験学習等の頻度や内容が分からず評価不可。 ③児童の自己評価80%超と取り込みの成果を感じる。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	3:70% 2:60% 1:60%未満			B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4				C	0	
								D	0	
個別目標2 世界とつながる国際都市を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「地域のことを学習する授業が好き」という設問に肯定的な回答をした児童の割合	4	外国語指導員との授業や海外との交流授業、English Caféの再開、手紙のやり取りなどを通して、英語に慣れ親しみ、英語を用いたコミュニケーションの経験を大切にした取組が見られた。また、音楽科や道徳科を中心に、我が国の伝統音楽や世界の民族音楽、人権について学ぶ活動を行い、多様な文化や価値観への理解を深めた。さらに、サイエンスショー等の体験的な学習や総合的な学習の時間を通して、SDGsや高齢化社会をテーマに、自分たちにできることを考える学習を進めた。今後は、発達段階や教科の特性に応じた題材設定を工夫し、国際感覚や持続可能な社会への理解を一層深	A	8	地域の文化・伝統・人に触れる授業があるとより地域に関心を持つかと思った。 （徳持神社から宮司と神興を呼んで文化を学ぶ等）
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	3:70% 2:60% 1:60%未満			B	1	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3				C	0	
								D	0	
個別目標3 一人ひとりの基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童の自己評価において、「友達と学習したり遊んだりすることが楽しい」という設問に肯定的な回答をした児童の割合	4	感謝の思いが込められた歌を通して、親しい人への感謝の気持ちを育むとともに、振り返りや意見交換を通して、他者の考えを聞き認め合う態度の育成を図った。授業では、一斉指導に偏らないよう、ペア活動や少人数指導、習熟度別指導を取り入れ、児童一人一人の理解度に応じた学習支援を行った。また、体を動かす時間を十分に確保し、健康に関する学習や生活習慣を振り返る取組を通して、健康意識を高めた。さらに、中学校体験や交流活動を通して、学びのつながりを意識する機会を設けた。	A	9	教育の中で一番大事な項目と思いますが、素晴らしい数字です。 学校も保護者も満足、私も大満足。 色々な事が豊かな時代で育った児童達が「小さな喜び」にも受けとめて、感謝できる大人へと成長してくれることを期待します。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	3:70% 2:60% 1:60%未満			B	0	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3				C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3				D	0	
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	学校公開時の保護者アンケート「こどもたちにとってわかりやすい授業をしていた」における肯定的評価の割合	4 98%	個別・グループ・集団など活動形態を工夫し、効果的な指導方法を模索するとともに、授業参観や校内研究、研修を通して授業力の向上に取り組んだ。また、外部機関と連携した文化的な体験活動や、地域の特色を生かした学習を計画的に実施し、児童の学習意欲を高めることができた。さらに、気付いた点を提案し、情報共有や業務の工夫を通して改善につなげ、学校運営の円滑化に寄与した。今後も、教育活動の充実と働き方の改	A	8	引き続きウェルビーイングを高める取組を行っていくことを希望いたします。 教員と保護者、生徒との評価、受取り方の違いが大きいと思った。 学運協で教員の研究に協力できたことは良かった。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	3:70% 2:60%			B	1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。	2				C	0	

		等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2			動が充実と働き方の改善に向けた工夫を重ねていく。	3	0		
						1:60%未満		D	0		
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「自分にはよいところがある」という設問に肯定的な回答をした児童の割合	4:80%以上	校内での連携を大切にし、必要に応じて教職員間で情報を共有しながら対応した。特別支援に関わる会議等や定期的な情報交換を通して児童理解を深め、気がかりな点については速やかに共有し、組織的な対応につなげた。また、保護者や関係機関とも連携し、面談や情報共有を通して、児童が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めた。	4	A	8	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:70%				B	1
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%				C	0
						1:60%未満		D	0		
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心なる教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートにおいて「学校満足度」の割合	4:80%以上	見やすく分かりやすい板書や掲示を心がけ、学習環境の工夫を行うとともに、地域の施設を活用した学習を通して学びを広げた。また、避難訓練では毎回ねらいを明確にし、計画的に実施するとともに、関係機関と連携した訓練や振り返りを通して、児童の防災意識を高めることができた。	4	A	8	学校の工夫が成果をあげ、それを保護者が感じ取ったという満足度の数字です。素晴らしいです。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:70%				B	0
						2:60%		C	0		
						1:60%未満		D	1		
個別目標7 地域の連携・協働による学校・家庭・地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートにおいて「学校は地域を児童の教育活動に生かしている」における肯定的評価の割合	4:80%以上	地域と連携した活動に関わり、地域の方々との交流を深める機会をもつことができた。また、登下校時の見守りや声掛け、保護者や地域の協力を通して、児童の安全意識を高め、安心して登下校できる環境づくりを進めた。さらに、必要に応じて地域への情報共有を意識し、学校と地域とのつながりを大切にしてきた。今後も、地域との連携の在り方を工夫していく。	3	A	8	学校・家庭地域が連携・協働して地域社会全体でこども達を育成することについては、徳持小学校は素晴らしく進んでいる小学校です。 こどもたちが笑顔で挨拶をしてくれるようになり、学校と地域との間が、近くなったように感じた。 こどもたちのおかげで地域の人々も元気をもらっているように思われる。 根底に個人情報の規定があると思われます。 学校関係者や当事者だけでなく、地域全体にも深めなくてはなりません。 町会とPTAとの情報交換も必要ですね。 学校と児童からは、地域との協力や連携の理解は得られている様子であるので、保護者へのアピールを強化したい。 非常に取り組んでいると感じます。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:70%				B	1
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%				C	0
						1:60%未満		D	0		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。